# 令和５年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書

１　趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティア活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかけます。

令和５年度は「関東大震災から１００年 いざという時の支えあいは 日ごろのつながりから」をテーマに開催しました。

２　日時

令和５年７月１日（土）午後１時から午後４時３０分まで

３　場所

すみだリバーサイドホール　イベントホール、ギャラリー、会議室

４　内容

（１）講演 「日ごろの何が暮らしを守るのか」

神戸市社会福祉協議会 地域支援部担当課長 長谷部 治 氏

（２）分科会

①災害時、私たちにできるボランティア

②日ごろのコミュニケーションと災害時の助けあい

③いざという時、あなたはどうする

（３）まとめ・講評

５　主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会、墨田区、墨田区社会福祉協議会

６　参加者数

| 所属等 | 人数 | 所属等 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 町会・自治会関係 | ４名 | 厚生課職員 | １０名 |
| 民生・児童委員 | １７名 | 区職員 | ７名 |
| ボランティア・個人 | ４３名 | J:COM | ３名 |
| 高齢者支援関係者 | １名 | 手話通訳、手話サークルすみだ | ９名 |
| 興望館関係者 | ９名 | あしたの会 | ４名 |
| 区議会議員 | ３名 | 墨田区社会福祉協議会職員 | １０名 |
| 実行委員 | １１名 | 区長・墨田区社会福祉協議会会長・講師 | ５名 |
| 合　　計 | | | １３６名 |

７　概要

（１）司会者紹介

今年度は実行委員の岩澤委員、増淵委員が司会者でした。

（２）開会挨拶

開会にあたり、鎌形実行委員長、山本墨田区長、須藤墨田区社会福祉協議会会長から挨拶がありました。

（３）講演

テーマ：日ごろの何が暮らしを守るのか

講　師：長谷部　治　氏

（神戸市社会福祉協議会　地域支援部担当課長）

**【導入：自己紹介】**

今年度から神戸市全体の災害ボランティアセンターに関する部署に所属し、１０年振りに災害ボランティアセンターのマニュアルを更新する等、今の時代に適した災害対応の整備に取り組んでいます。本日は、日ごろのどのような習慣が暮らしを守るのかについてお話します。

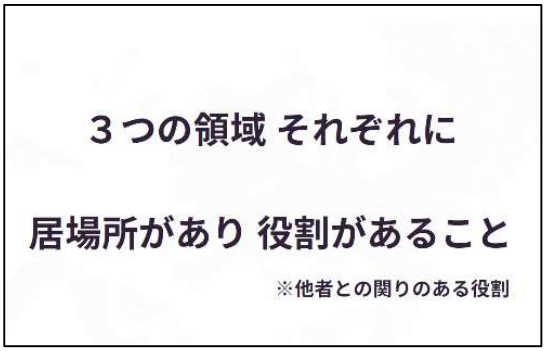
まずは、職業・家庭・社会の３つのカテゴリーでの役割を視点に話を進めていきます。職業としては神戸市社会福祉協議会の地域支援部担当課長です。家庭では、父親として食事を作ったり、子どもたちと一緒に物づくりをしたりしています。社会の中では、神戸常盤大学で非常勤の講師として、口腔保健学科で授業をしています。少し詳しく話をすると、阪神淡路大震災でも避難生活している間に亡くなる方が相当数いました。大半の原因が肺炎で、肺炎になる原因の一つが、当時水が貴重だったこともあり、歯磨きに使うのがもったいないという雰囲気が避難所の中で蔓延していました。長い避難所生活の中で、口腔内で細菌が増えてしまい、それが肺に入ってしまうことで、肺炎を引き起こしていました。１９９５年以降多くの災害で歯科衛生士や歯科医師が、避難所での歯磨きの周知や歯ブラシ等を配布するといったボランティア活動が広まっていきます。授業の中では、歯科衛生士の方に、いざという時に大きな力になるということを講義で伝えています。

また、「FM わいわい」では多文化・多民族共生のまちづくりをコンセプトに７言語のラジオ放送をしていました。阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災の際には現地の情報を取り寄せて、翻訳した音声ファイルを現地に送るというような活動もしていました。

【居場所について】

神戸市社会福祉協議会としては、職業領域、社会領域、家庭領域のそれぞれに居場所や役割がある人を増やしていきたいと考えています。昔は男性は仕事、女性は家庭、隠居をしたら地域に関わるような時代でしたが、今は共働きの時代です。忙しい現代では３つの領域のどこかが欠けており、仕事や家庭で失敗した時に「他の居場所に避難できない」、「自分を守ることができない」人が増えています。社会の中にも役割、居場所、コミュニティがあった方が良いと考えています。

会場には民生・児童委員、町会・自治会の役員等、様々な方が来ていますが、その役割は地域への貢献だけでなく実は自分のためにもなっており、その考えを広めていくことが地域活動や防災の観点でも重要と考えています。



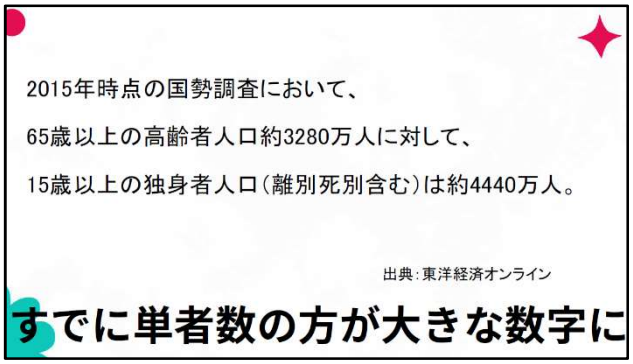
【近くに座っている方同士で自分がどのような役割を持っているかを話し合っていただきました。】

ボランティアは自発的に活動していると思われがちですが、実際にボランティア活動をしている人に「なぜ始めたか」を聞いてみると「１日だけ、少しだけ手伝って」と誘われていることが多いです。「最初の一歩は誰かに誘われて」といった流れがボランティアの世界はあることが分かってきています。このようなフォーラムに、例えば地域のスポーツクラブや地域活動者の方を誘い、巻き込んでいくことが地域の防災力に繋がっていきます。

【ニーズとウォンツは違う】

今の日本は超高齢化、少子化と言われています。しかし、第２次ベビーブームを受けた１９７４年７月の「日本人口会議」では、日本の面積や資源を考慮し、第３次ベビーブームを起こさせないように「子どもは二人まで」と宣言していました。この結果、１９７０年半ば以降の完結出生児数は２人で横ばいになっています。また、２０１５年時点の国勢調査において、６５歳以上の高齢者人口は約３，２８０万人に対して、１５歳以上の独身者人口は約４，４００万人となっています。

単身世帯では、職業と家庭のことを全て一人でやらないといけないため、地域に関わるということが難しくなります。このため、地域福祉や防災の分野では高齢化・少子化だけでなく、社会の単身化も意識する必要があると考えています。

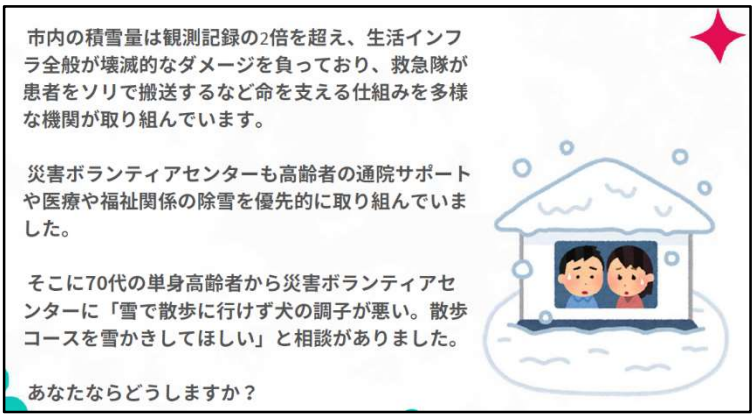


また、同じ住居の中で長女が家計を管理し、長男が仕事に行き、次女は家にいるような世帯や互いを知らない留学生が一緒に住んでいる世帯といった（仮称）複単身世帯では、長女の認知症をきっかけとして、その世帯での暮らしが崩壊していくような問題や一緒に住んでいる留学生同士がお互いを知らないまま被災してしまうような問題があります。

阪神・淡路大震災の時に野外入浴場の管理に携わり、「男性」、「女性」、「介助が必要な男女」と４つのグループの入浴を順番制で管理していました。当時、８０代の高齢女性から風呂に入りたいと強く要望され、順番制の説明をしても納得しませんでした。話を聞いてみると５０代の知的障害を持った息子がおり、親としか入れないとのことでした。この時に、仕組みを作るだけではなく個別の対応が必要となる方や避難先の生活が上手くいかない人がたくさんいることに気付きました。墨田区でもそういった視点で防災活動を進めていただければと思います。

また、積雪が観測記録の２倍を超えた群馬県前橋市で災害ボランティアセンターの立ち上げを行いました。当時は通院・医療サポートを行いながら、優先箇所の除雪をしていましたが、７０代の単身高齢者から「雪で散歩に行けず、犬の調子が悪い。散歩コースを雪かきしてほしい」との電話相談がありました。この相談を受けたコーディネーターが本人との話で違和感を覚えたため、地域包括支援センターと連携して訪問したところ、エアコンの室外機が雪で埋もれてしまっており、本人と犬は部屋にうずくまるようにして寒さをしのいでいる状況でした。

このようにニーズとウォンツが違うことが多々あり、自分に必要なサービスを気付ける人は少ないです。地域活動のプロとして活動する際に、この人に本当に必要なサービスは何だろうと考えていただければと思います。




（４）分科会

①災害時、私たちにできるボランティア（２階　イベントホール）

【趣旨】

近年、各地で大規模な自然災害が発生しており、ボランティアは災害時の復旧・復興に欠かせない存在となっています。地域における災害時のボランティア活動はどのようなものがあるのか、その時私たちに何ができるかについて考えました。

【代表発表者：墨田区社会福祉協議会　杉山　延之氏】

分科会の冒頭で、災害ボランティアは力仕事というイメージをされると思いますが、様々な活動があることを紹介させていただきました。

分科会の１グループでは、民生委員の方から東日本大震災の時の経験や実際の活動を話していただきました。また、現代は個人情報の保護の観点から、地域で顔の見える関係を作ろうとしてもなかなか難しいという話しもありました。

その上で、大きいことを動かすには、まず小さいことから始めていくことが大事という結論が出ました。

２グループでは、「若い世代の参加を増やしていくにはどうしたら良いか」について、意見交換がありました。３０～４０代の方には声をかけづらいので、イベントを活用しながら、顔の見える関係を作っていくのはどうかという意見がありました。また、通常は１つの町会でイベントを開催することが多いが、隣の地域と合同で行い、それぞれが得意な事や資源を活用していく手法も挙げられました。

②日ごろのコミュニケーションと災害時の助けあい（１階　ギャラリー）

【趣旨】

災害時には、地域で協力し助けあう「共助」が大切です。日ごろのコミュニケーションや多世代との関わり方などについて、これからの地域福祉の担い手として期待される若い方の視点にも着目しながら、災害時の助けあいにつながる地域づくりについて考えました。

【代表発表者：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会 副委員長 五十嵐 美奈氏】

分科会の冒頭で、東向島を拠点にしながらアート活動をしている一般社団法人藝と代表理事の青木 彬 様から事例報告をいただきました。若い世代の地域活動を考えるヒントとして、地域の方が集まる場所として使わなくなった工場を活用したり、廃材を用いたベンチを設置するといった活動をご紹介いただき、アートと福祉のつながりについてお話しをいただきました。災害時でも顔見知りの方々が互いに支え合えるように、地域に根付いた地域活動・表現活動がとても大事だと認識しました。

私が参加したグループでは、防犯・プライバシーの保護から、支援者も含めて地域に出ていくことが難しくなっていると感じており、単身で地方から大学に通っている方からも地域に出て行きづらいと感じているとの意見がありました。また、近年はオートロックの住宅も増えており、見守りも難しくなっています。一方で、障害を持っているお子さんの保護者同士の話し合いの場を Facebook で周知している方や町会の掲示板で情報を入手している方もおり、地域の人が集まることができるようにどのように情報を出していくかが大事と感じました。

③いざという時、あなたはどうする（１階　会議室）

【趣旨】

大きな災害はいつ起きるか分かりません。参加者の皆様には様々な問題に直面した「当事者」として、その時どのように行動するかをカードゲーム（クロスロードゲーム）を通じて考えました。

【代表発表者　NPO 法人 ADRA Japan　三原　千佳氏】

災害時を想定したお題に対して自身の行動を考えてみるというクロスロードゲームを行いました。災害対応の際には「どちらかを選んでも何らかの不利益が生じる」というジレンマの中で重大な決断を迫られます。限られた情報の中で、YES・NO を判断していただき、その理由をグループの中で話し合い、参加者同士でそれぞれの考えを共有します。

例題としては、「あなたは受験生です。避難所では仕事を手伝う毎日です。若くて体力があると感謝されています。しかし、勉強は手につかず、このままでは合格できないかもしれません。避難所の手伝いをやめて受験勉強をする？」といったものです。

今回は、YES・NO 以外に他の方法がないかグループの中で考えていただきました。「週に手伝う回数を決める」、「受験生が言うのではなく、他の人が仕切る」、「受験生の勉強部屋を作る」といった意見がありました。災害時では、自身を含めて疲弊する方や困難を抱える方、無理をしてしまう方が出てきます。どのように対応していくかに正解はありません。このような方々をサポートしていますが、もともとコミュニティがしっかりしているところは復旧も早いと感じています。引き続き、顔の見える関係を作っていただけたらと思います。

（５）まとめ・講評（長谷部 治氏）

各分科会を回ってみて、ボランティアは「やり始めてから」、「頼まれてから」やる気が出るように、やはり分科会も参加をしてみるとやる気が出てくるものだと感じました。

昨年にボランティアはどういうものかを大学生にアンケートしたところ、１位は「無理やりやらされる」でした。学校生活の中で、そういった位置づけでボランティアというものに出会っているのだと感じました。作業して終わりではなく、振り返りがないと、無理やりやらされている感じになってしまいます。今日の分科会も振り返りながら、他の分科会の情報も共有をしながら学んでいただければと思います。

神戸市社会福祉協議会では地域福祉をもっと科学的に進めていこうと考えており、今日の分科会では「普段からのつながりが大事」という話しがいくつも出てきたと思いますが、なんとなくそう思っている方は多いのではないでしょうか。

東京大学の先生方が中心となっている日本失敗学会では、やったことがないことが成功（イノベーション）する確率は３/１０００という検証結果を出しています。このことからも災害時に地域が支えあうためには、普段から繋がっている必要があります。アートや音楽の活動を活用すれば、若い子

が集まりに来てくれるとか、若い人の生活（SNS の利用等）をイメージしながら進めるといった工夫も良いと思います。また、分科会の中で「お祭り」というキーワードがいくつか出ていましたが、墨田区の地域性だと感じました。

２０１８年９月の台風２１号で流されたタンカーが関空連絡橋に衝突した時に、近くの岸和田市で災害ボランティアセンターの立ち上げをしていました。家が崩れてしまい、車が通れなくなってしまったところがありましたが、２週間後のだんじり祭りのために若者のたちが協力し、片づけ作業を行っていました。お祭りのコミュニティも大事にしていただきたいです。

関東大震災から１００年が経ちましたが、地域福祉を進める中で、再び人が声を掛け合えるような地域を復活させたいと考えています。このようなフォーラムに様々な方をお誘いして、活動を広げていただき、誰かの命を守り、誰かを助けるような防災力を墨田区でも実現していただきたいと思います。

（６）エンディング

墨田区社会福祉協議会前田事務局長から、挨拶があり閉会となりました。

８　その他

（１）実行委員会の開催

本フォーラム実施に向け、「すみだ地域福祉ボランティアフォーラム実行委員会」を設置しました。

| 回数 | 日時・場所 | 内　容 |
|---|---|---|
| 第１回 | ４月６日（木）午後１時３０分<br>リバーサイドホール | 役員の選出、テーマ・内容の検討 |
| 第２回 | ４月２０日（木）午後２時　１２１会議室 | テーマ・分科会の検討 |
| 第３回 | ５月１８日（木）午後３時　　２１会議室 | テーマ・分科会の検討 |
| 第４回 | ６月９日（金）午前１０時　　３１会議室 | 役割分担・分科会の進行の検討 |
| 第５回 | 書面により実施（６月末） | 配布資料の事前送付及び最終確認 |

（２）実行委員（敬称略）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 鎌形　由美子（委員長） | 伴　道子 | 岩澤　和樹 | 能重　建一 |
| 五十嵐　美奈（副委員長） | 林　佳慧 | 増淵　順 | 若菜　進 |
| 川名　百世 | 鈴木　一郎 | 栗田　陽（7/1 から前田 恵子） | 若林　三穂 |

※7 月１日で前田 恵子

（３）広報

区のお知らせ（６月２１日号）、すみだ社協だより（６月号）、墨田区ホームページ、墨田区公式 Twitter、墨田区社会福祉協議会ホームページ、チラシの配布等により、PR を行いました。

（４）アンケート結果

① すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムに参加したことがありますか？

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 初めて | ４２名 | ３回目 | １名 | ５回目 | １名 | 多数回 | １４名 |
| ２回目 | ７名 | ４回目 | ２名 | ９回目 | １名 | | |

② すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムは何で知りましたか？（複数回答可）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 区・社協のホームページ | ３件 | 知人等から誘われて | ２件 |
| チラシ | １９件 | 所属団体からの連絡 | ３０件 |
| 区報・社協だより | １８件 | その他 | １３件 |

③ 内容について

ア　全体

| | |
|---|---|
| よかった | ６２件 |
| どちらかといえばよかった | ６件 |

イ　講演会

| | |
|---|---|
| よかった | ６３件 |
| どちらかといえばよかった | ３件 |
| よくなかった | １件 |
| どちらともいえない | １件 |

ウ　分科会１「災害時、私たちにできるボランティア」

| | |
|---|---|
| よかった | ８件 |
| どちらかといえばよかった | １件 |

エ　分科会２「日ごろのコミュニケーションと災害時の助けあい」

| | |
|---|---|
| よかった | ２３件 |
| どちらかといえばよかった | ６件 |
| どちらかといえばよくない | １件 |
| よくない | １件 |

オ　分科会３「いざという時、あなたはどうする」

| | |
|---|---|
| よかった | １８件 |
| どちらかといえばよかった | ４件 |

④ 本日の感想や今後取り上げてほしいテーマ等

【～２０歳代】

・私はボランティアをしていませんが、日ごろのつながりやコミュニケーションは自分にもできるので続けようと思いました。町会やボランティアチームに入るのはハードルが高いですが、笑顔で地域の人とあいさつをしようと決めました。今日はありがとうございました。

・様々な視点から課題が取り上げられ、多くの世代が密接に関わることで課題に向き合う方法が見えてくるのではないかと思いました。

・普段から地域のコミュニケーションが大切であると改めて感じ、知らなかったことをたくさん知ることができました。

・「人を誘う」「ニーズを見極める」など、アートプロジェクトの現場では自分が気をつけている振る舞いと通ずる話があり、自分が社会や職場で身に付けたコミュニケーションは、となりの人に広げられる＆聞けることと思いました。
・より周りを見る視点が大切だということを学びました。また、講義も学ぶことが多かったです。
・地域とのつながり方や地域活動をもっと知りたいです。
・グループワークで色々な立場の方からのお話しが聞けて、とても良い学びの機会になりました。

【３０歳代】

・長谷部さんの講演で「仕組みづくりと個別の対応」は両輪で行うことが大事という話があり、地域福祉やボランティアを行う上で、大切な目標であると感じました。様々な状況にある人を取りこぼさないために、つぶさに人々と向き合い、尊重しながら活動を行う必要性を考えながら何をすべきか決めるべきだと思います。
・一緒になったグループが同業者の方が多く、他業種の方と意見交換をしたかったです。
・色々な団体や個人の方とお話しさせていただき、自分の視野が広がりました。

【４０歳代】

・大変楽しませていただきました。

【５０歳代】

・長谷部様の講演、大変参考になりました。
・講演の内容が素晴らしかったです。
・単身の方たちが暮らしている地域に愛着をもち、つながりの必要性を感じることができるまちづくりをお取り上げてほしいです。

【６０歳代】

・歯切れの良い関西弁で聴きやすく分かり易かった。分科会３はシチュエーションが漠然としており、もっと緊急時にどう対応したらよいか自分事として考えさせてくれる講習会がよかったです。
・同じ立場の委員や新しく引っ越しされてきた方と話すことができてよかったです。
・初めての参加でしたが、とても参考になる事案があり、今後の防災対策に役立てていきたいと思いました。まずは、自分自身の自己啓発からと改めて感じました。
・地域でのコミュニケーションでヒントになる点が多々ありました。
・新しい視点が多く、大変勉強になった。分科会２ではいろいろな話しができ、仲良くなることができました。
・色々な話が聴けてとてもよかったです。
・個別対応時の注意や個人情報の範囲等を教えてほしいです。

【７０歳代】

・とても楽しく分科会を進められました。皆様、活発に意見を出していました。
・分科会の中身と講演の内容にギャップを感じました。若い方のお話しが聴けて有意義でした。
・単身者、複単身者、留学生アパートの話に興味が湧きました。
・効果的な防災訓練について知りたいです。

⑤　現在ボランティア活動・地域福祉活動をしていますか？（具体的な活動）

| | |
|---|---|
| している | ５２件 |
| していない | １３件 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町会自治会活動 | ３９件 | 福祉施設の手伝い | ６件 |
| 地域の障害者や高齢者への見守り、手助け | ２２件 | 災害ボランティア | ７件 |
| 地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け | １６件 | 国際交流・国際協力 | ２件 |
| 各種イベント運営の手伝い | １１件 | | |

その他：市民後見人、音訳（２名）、点訳、地域猫活動、青少年育成委員会、
障害児ママのためのお話し会、映画祭やアートイベントの手伝い

⑥　今後どのような活動をしてみたいですか？

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町会自治会活動 | １９件 | 福祉施設の手伝い | ８件 |
| 地域の障害者や高齢者への見守り、手助け | １８件 | 災害ボランティア | ２０件 |
| 地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け | １７件 | 国際交流・国際協力 | １０件 |
| 各種イベント運営の手伝い | １５件 | | |

その他：地域人材を様々な活動に誘うこと

⑦　年代

| 年齢 | 人数 | 年齢 | 人数 | 年齢 | 人数 | 年齢 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ～２０代 | ９名 | ４０代 | ５名 | ６０代 | １９名 | ８０代 | ６名 |
| ３０代 | ４名 | ５０代 | １２名 | ７０代 | １１名 | | |

※参加者の年齢の推移（平成 29 年度～令和５年度）

| | 20 代 | 30代 | 40代 | 50 代 | 60 代 | 70 代 | 80 代 | 20-40 代 | 50-80 代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29年度 | 0% | 3% | 5% | 22% | 33% | 22% | 4% | 8% | 92% |
| 30年度 | 4% | 4% | 9% | 11% | 30% | 30% | 5% | 17% | 83% |
| 元年度 | 1% | 9% | 7% | 17% | 25% | 27% | 13% | 17% | 83% |
| ３年度 | 0% | 4% | 2% | 11% | 25% | 40% | 9% | 6% | 94% |
| ４年度 | 8% | 3% | 3% | 16% | 16% | 35% | 9% | 14% | 86% |
| ５年度 | 14% | 6% | 7% | 18% | 29% | 17% | 9% | 27% | 73% |

⑧　住まい

墨田区内：４５名　墨田区外：９名